

平成29年第4回市原市教育委員会定例会会議録

- 1 期日等 平成29年4月25日(火) 議会棟第4委員会室  
開会 15時10分  
閉会 16時45分
- 2 出席委員 前田周一 伊藤 均 洞 厚子 船山慶子 秋田秀博
- 3 出席職員
- |           |       |           |       |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 教育総務部長    | 平田浩造  | 学校教育部長    | 齋藤利光  |
| 生涯学習部長    | 鈴木昌武  | 教育総務部次長   | 永野 治  |
| 学校教育部次長   | 牧野裕之  | 生涯学習部次長   | 白石文康  |
| 教育総務課長    | 若菜一繁  | 教育施設課長    | 渡邊 誠  |
| 学校保健課長    | 橋本旬一  | 指導課長      | 柴崎雅之  |
| 教育センター所長  | 鶴岡政彦  | 生涯学習課長    | 梅津雅之  |
| 中央図書館長    | 星野千富美 | スポーツ振興課長  | 安藤泰昭  |
| ふるさと文化課長  | 山形紀美枝 | 教育総務課総括主幹 | 高橋正人  |
| 学校教育課総括主幹 | 市川博文  | 生涯学習課総括主幹 | 五十嵐賢幸 |
| 教育総務課係長   | 土田耕司  | 教育総務課主任   | 中村涼太  |
- 傍聴人 0名
- 4 会議録署名人の指名 伊藤委員を指名
- 5 会議録の承認 承認(平成29年第3回定例会)
- 6 委員報告 なし
- 7 教育長報告 出席した諸行事に関する報告
- (1) 3月28日 少年防災クラブ市長訪問  
優良消防クラブ消防庁長官賞を受賞した菊間小、戸田小の報告があった。
  - (2) 3月29日 出光興産(株) 感謝状贈呈式
  - (3) 3月30日 (株)開運 感謝状贈呈式  
学校に寄附をしていただいた2つの団体に感謝状を贈呈した。
  - (4) 3月30日 ボーイスカウト市原市長顕彰会  
中学生年代では、最高位の菊スカウト賞を受賞した

- 2名の生徒の報告があった。
- (5) 3月30日 土砂災害防止に関する絵画優秀賞受賞市長報告  
国土交通省交通事務次官賞を受賞した生徒の報告があった。この生徒は2年連続の同賞受賞となった。
  - (6) 4月 2日 市原市青少年相談員連絡協議会 定期総会  
県及び市から委嘱を受けた230名の参加で定期総会が開かれた。
  - (7) 4月 4日 三和ミニバスケットクラブ優勝報告会  
全国大会優勝の報告を行った。このクラブは市西小、養老小、戸田小、寺谷小の4校合同チームで、練習を積み重ねて快挙を成し遂げた。
  - (8) 4月19日 台湾高雄市 教育視察表敬訪問  
3名の教員が学校統廃合の参考として加茂学園と海上小を訪問した。また、廃校利用の観点からアート×ミックスを視察した。
  - (9) 4月19日 市原市特別支援教育研究連盟 定期総会  
特別支援学級の担当、全小中学校の校長が参加した。現在、小学校41校中39校、中学校22校中20校に特別支援教室が設置され、502名の児童、生徒が在籍している。

- ・ 以上の参加行事9件について別紙をもとに報告

## 8 議題

### (1) 議決事項

議案第10号 市原市通学通園路事故防止対策協議会委員の委嘱について

教育総務部長が提案理由及び議案の説明  
(委員の選任事由、委員の区分等)

- 伊藤委員  
通学路危険箇所について、公表しているのか。
- 教育施設課長  
対応した状況について、市ウェブページで公表している。
- 伊藤委員  
その地域の人達には、周知をしていないのか。
- 教育施設課長

現状では、学校を通じて通学支援ボランティアと情報共有を行っている。

- 伊藤委員  
その地域にも周知を図ったほうが良いと考えるがどうか。
- 教育総務部長  
出来るだけ情報を公開すべきだと考えるので、学校と調整のうえ、対処していきたい。
- 洞委員  
事件、防犯対策として、人通りが少ない場所等について、協議することはないのか。
- 教育施設課長  
この協議会では、通学路の交通事故防止を目的として、警察署や道路管理部門を集めて、危険箇所の点検を行っている。
- 秋田委員  
市原市交通安全プログラムの内容について教えて欲しい。
- 教育施設課長  
このプログラムは、過去に全国で登下校中の事故が相次いだことから、関係機関と連携して緊急合同点検を実施し、必要な安全対策を具体的にまとめたもので、危険箇所の点検後、対応が適正に行われ、安全確保がなされているか確認したものである。
- 船山委員  
危険箇所への対応の他に、危険箇所を出来るだけ通らないような指導を子供達に徹底して欲しい。
- 教育総務部長  
学校教育部と連携を取りながら、進めていきたい。

採決の結果、全委員の一致で原案可決

議案第11号 教科用図書及び教科用図書以外の図書その他の教材の取扱い方針  
について

学校教育部長が提案理由及び議案の説明  
(方針の内容等)

- 伊藤委員  
取扱い方針のなかに「地域への誇りと愛着を持ち社会の中で活躍する人材を育む教育」とあるが、具体的にはどのようなことか。

- 学校教育部長  
まず、地域を見て回り、観察させることで、自分達の地域を知るということを重視していきたい。次に、地域行事等を通じて、誇りや伝統を感じて、社会の中で生きていくと実感させていきたいと考える。
- 伊藤委員  
「社会の中で活躍する人材を育む」ためには、家庭の繋がりが大事で、子供の貧困や学歴格差に結びつかないような教育が必要だと思うが。
- 教育長  
端的に言えば、市原に親と一緒に住むような考えが必要ということではよいか。これは、教育だけでは成しえない部分も多いが、教育においては、郷土の誇りや地域を愛する心、地元住民の一員だという自覚を持たせるところを担っていくべきだと考える。
- 伊藤委員  
現在の社会に欠けている教育は何かということを考えていかないと社会で活躍する人材を育むことは、難しいと思われる。
- 教育長  
教育委員会でも情報収集や検討している内容もあるということを伝えておきたい。
- 秋田委員  
教科用図書をどのような基準で選定するかは、理解した。これから選定作業に入っていくが、関係者の共通理解を基幹として進めていくことが非常に大事だと考える。
- 船山委員  
教科用図書の取扱い方針については、今回の観点で良いと思われる。また、伊藤委員から話しがあったが、大きな視点で捉えれば、人格形成という部分になると考える。人格形成には、学校教育・家庭教育・社会教育のバランスが取れ、同じ方向性を持つことが大事だと思われるので、教育委員会内の3部で協力して取り組んでもらいたい。
- 洞委員  
道徳というと男性と女性で考え方の違いが出てくると思うが、選定には、女性からの意見の反映はあるのか。
- 学校教育部長  
意見聴取者を含めた中で配慮する。

採決の結果、全委員の一致で原案可決

議案第12号 市原市教育支援委員会委員の委嘱について

学校教育部長が提案理由及び議案の説明  
(委員の選任事由、委員の区分等)

- 秋田委員  
特別支援学級の状況を教えて欲しい。指導者や教室は足りているのか。
- 学校教育部長  
場所は確保できているが、指導者の面で難しい部分もある。
- 教育長  
昔は、特別支援学級の指導に抵抗感を持つ教員もいたが、最近は意識が変わってきたと感じる。教室の急激な増加に対する課題については、教員の年齢要件の緩和を県に強く働きかけていきたい。
- 伊藤委員  
同じ要望をすでに出しており、今後、県から回答があると思う。また、情報提供になるが、市内の特別支援学校の就職率は100%である。
- 船山委員  
市原の教育大綱にあるように、一人ひとりの資質と能力を最大限に伸ばすためには、障がいの有無や程度に関わらず、子供の歩みに合わせながら進めるという視点が大事だと思われるので、教育センターでも、そのような研修をお願いしたい。現場でも地域の協力を得ながら、個性や自主性を伸ばすように頑張っていたきたい。
- 教育センター所長  
絶対評価をすることで、子供の持っているものを伸ばそうとしている。また、個別の指導計画や支援計画、スクラムサポートを使用しながら、切れ目のない指導をしていこうと思っている。教育センターでは、研修を深めながら、能力をつけてもらうように取り組んでいる。

採決の結果、全委員の一致で原案可決

(2) 報告事項

報告第18号 (仮称) 市原市学校教育振興計画策定方針について

学校教育部長が報告理由及び議案の説明  
(策定方針等)

- 船山委員  
年度末までに策定される間で、定例会での報告が予定されているが、その際には、それまでに開催された他の会議での意見や質問等、経過がわかるような資料を添付して欲しい。
- 学校教育部長  
概略程度になるかもしれないが、議事録や経過を示したいと考える。
- 伊藤委員  
策定の進め方の中で、「意見交換の場である総合教育会議」という記載があるが、会議の中で合意されたことは、実行しなければならないので、表現を改めた方がよいのではないか。
- 教育総務課長  
会議について規定されている法を解釈すると、必ずしも誤りではないと思われる。
- 教育総務部長  
策定の進め方の説明を最初から読むと「市長事務部局との調整にあたっては、総合教育会議を活用する」という記載があるので、このままの表記でも良いかと考える。
- 伊藤委員  
保護者及び教員にアンケート調査を実施するとあるが、中学校を卒業した者への検証について、何か考えているのか。
- 学校教育部次長  
保護者及び教員へのアンケートの他、市民へ計画に対しての考えを聞く機会として、12月にパブリックコメントを予定している。そこで、現在、学校に関わっている者だけではなく、卒業した者を含めた市民の意見を聞き、計画に反映していこうと考えている。
- 伊藤委員  
パブリックコメントだけでは不足しており、結果についての評価や検証が必要ではないか。
- 学校教育部次長  
義務教育を卒業した若者に限定したアンケート調査は難しいと思われるので、一般的な計画づくりで行っているパブリックコメントで広く意見を聞きたいと考えている。
- 教育総務部長  
パブリックコメントは、計画づくりの中で、広く意見を聞くという制度なので、これを活用していきたい。計画策定後の成果については、例えば、市民アンケートでの郷土への愛着に対する設問等で、広い意味合い中で人格形成を測ることができるかと考える。このような数値が

上がることで、教育の基礎となる部分の成果として見ることはできるのではないかと感じている。

○ 伊藤委員

計画の点検や評価の際には、どのような指標を設定し、成果がどうであったかを併記すると良い。

○ 学校教育部次長

今回は、計画を策定するうえでの考え方の報告である。策定後は、点検・評価をしていくことになるので、評価指標を設定する際には、委員の意見も参考に検討していきたい。

○ 秋田委員

手元の資料の中に、今回の計画の位置付けについて、イメージ図が載せられている。このような関連図や組織図があると、よく理解できる。今後、作成される資料についても同様な手立てをして欲しい。

採決の結果、全委員の一致で原案了承

報告第19号 市原市指定文化財の指定解除について

生涯学習部長が報告理由及び議案の説明  
(指定解除の理由等)

○ 船山委員

市から県の指定に変更となったが、これまでと同様な活用が可能なのか。

○ 生涯学習部長

今後も市の管理が基本となるため、地域で活用できると考える。特別な事由により、県への相談が必要か確認したい場合には、市を通じて行っていただければと思う。

採決の結果、全委員の一致で原案了承

(3) その他

ア 行事報告について

学校教育部及び生涯学習部の行事を書面により報告

イ 学童保育事業について

子ども未来部から、学校施設を活用した学童保育事業について、5つの小学校において、新たに学童クラブを設置する旨の提案を、平成29年第2回市原市議会定例会で行うとの説明があったため、教育総務部長がその概要を報告

9 閉会 16時45分